

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600142		
法人名	社会福祉法人 新生会		
事業所名	リハビリセンター白鳥		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町白鳥386番地		
自己評価作成日	令和6年12月25日	評価結果市町村受理日	令和7年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600142-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

どこの場所からも四季折々の景色が眺められるように大きな窓が設置されており、暖かな日差しの中で仲間の方とお話が弾む場所となっています。併設しているカフェにも自由に行き来ができ、新聞を読まれたり、コーヒーを飲まれたり、デイサービスの利用者さんとも気軽に話せる環境となっております。近隣のサンビレッジ国際福祉医療専門学校と一緒にはレクリエーションなども行う企画も考えています。施設内の広い空間を活用し、車椅子の利用者さんも可能な限り自操をしていただきながら下肢筋力の維持を行っています。地域の小学生の見守り隊も行いながら外気に触れ季節を感じ、ドライブなどにも出かけ楽しみのある生活が送れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、複数の利用者サービスを運営する法人施設内に併設されている。コミュニティカフェやマシンルームは、地域住民の交流の場となっており、行政から委託を受けた介護予防教室などにも活用されている。介護予防の拠点となることで、在宅で暮らす高齢者と利用者が、自然に交流をすることができる環境である。また、法人が主体となって行う「陽の里まつり」のチラシを町内全戸に配布するなど、行政との良好な関係性がうかがえる。職員は、チャレンジシートを活用しながら自己研鑽に努め、より良いケアに向けて日々邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活リハビリと自立支援を基本とし白鳥十か条を朝礼時職員間で共有を行い業務に入れるように努めている。	法人理念及び「新生語録」「ホーム理念」「白鳥十か条」等を常に意識したケアを提供している。全員で、その日、特に心掛ける事項を復唱して、ケアに努めている。白鳥十か条は開設当初の職員で作上げたものとして引き継がれている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	駄菓子屋を通じて地域の子供たちや学生などと交流を行い、近隣の小学生の帰宅時間には見守り隊を実施し交流を行っている。	法人施設内には、コミュニティカフェや地域住民に開放されたマシーンルームがあり、介護予防拠点となっている。見守り隊や職場体験を通じて、子どもたちとの交流もあり、地域の誰もが気軽に利用出来る場である。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の会議を開催し現在の入居者さんの状況報告や取り組みを報告しアドバイスなどを頂きながらサービス向上に努めている。	併設施設と合同で運営推進会議を開催している。特別養護老人ホームとグループホームからは、家族の代表が参加している。活動状況やヒヤリハット・事故について報告し、参加者から意見やアドバイスを受けながら、サービス向上に活かしている。	運営推進会議では丁寧に事業所の情報が共有されているが、その内容は代表家族にとどまっている。議事録を参加できなかった家族にも配布するなど、事業所運営に関心を持ってもらえる工夫に期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて活動報告やリスクの報告を行い助言をいただいている。地域の方にも施設内に気軽に入ってもらえるような取り組みができる様にと企画を計画し実施している。	今年度より、事業所が開催する「陽の里まつり」のチラシを町内全戸に配布してもらっている。各種介護予防事業にも取り組んでおり、行政と連携した取り組みを積極的に行っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し身体拘束について職員で再度確認しながらリスクの共有も行い、日々ケア方法などを検討し業務に当たる様に心がけている。	併設施設と合同で、リスクマネジメント・虐待防止・身体拘束防止委員会を開催している。各利用者サービスにおいてのヒヤリハットや事故報告を共有することで、更に、より良いケアが行えるよう取り組んでいる。	3つの委員会を同時開催することで、効率化が図られている。開催は一体的に運営して差支えないが、委員会毎に議事録を整理することで、後に、より掘り下げた議論と記録に繋がると思われる。事例はなくとも、研修に繋がる書式作りに期待したい。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を深める為、年2回の勉強会を実施している。日々のケアの中でも悩み事など、1人で考え込む事のない様、話しやすい環境作りに努めている。	定期的に委員会と勉強会を実施している。虐待とは何かを理解し、虐待を見逃さない体制を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない方に対しても社協と共有しながら成年後見人制度を活用し、安心して過ごしていただけるようサポートさせて頂いている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはご本人・ご家族さんに契約書の中身をご説明し、ご理解していただけるまで説明を行っている。同時に施設利用時におけるリスク等も説明実施している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に満足度アンケートを実施し、いただいたご意見を職員間で共有を行いより良い施設運営に反映できるようにしている。	家族代表が運営推進会議に参加しており、意見を聞いている。また、満足度調査を定期的に実施し、運営推進会議でも共有している。玄関のわかりやすい位置に、職員の顔写真と名前を掲示するなど、家族からの意見を反映させている。	「リハビリセンター白鳥ニュース」で、認知症や支援についての思いを発信している。出来得るならば、運営推進会議議事録のように、利用者の普段の様子や表情などがわかる写真を加えるなど、家族に普段の様子を伝える工夫にも期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自身で考え責任感のある行動が行えるよう、他部署間での連携会議を実施し、管理者と一緒に施設運営ができる取り組みを実施している。	職員同士の関係は良好であり、管理者やリーダーとも、日常的に話し易い関係性が出ている。部署会議で出た意見は法人に挙げ、改善できるよう検討している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	チャレンジシートなどを活用し、スタッフとの面談も実施。普段から話しやすい環境作りにも取り組み、随時悩み事や不安なことなど聞き取れるように実施している。	職員は、現場から離れた畳スペースで休憩時間を取ることが出来る。また、チャレンジシートを活用し、職員は個々の希望や目標を書いて管理者に提出している。年度末に振り返りを行いながら、事業所全体の資質向上に繋げている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを把握しながら法人内の研修を活用し個々のスキルアップに繋げている。随時コミュニケーションを図りながら職員の育成に取り組んでる。	年間を通じた研修計画があり、外部研修についても、希望により受講が出来る。オールジャパンケアコンテストに出場した事で新たな気づきを得ることができ、その内容と経験を職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	勉強会や研修会などで法人内他事業所と交流を図っている。事例発表会も開催し法人外の事例を共有し情報交換を実施しサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの生活歴や趣味などを把握し、今できる事を大切にしながらコミュニケーションを図り同じ時間の共有を大切に行っている。一緒にカレーライスやおやつづくりも行い生活を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から本人の思いや希望を聞き取り、思いを伝えることの困難な方は今までの生活歴や現在の表情などからその方らしい暮らしに寄り添えるようケアの実施を行っている。	担当制を設けており、利用者の表情や声などから思いを汲み取り、職員間で共有している。新たな情報は、利用者の状態変化や介護認定更新月などに、フェイスシートとして更新している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	快適に過ごしていただけるよう、本人や家族の思いを確認しながらプランの作成に心掛けている。カンファレンス開催時には多職種での参加を行い、情報共有を実施しケアの統一を図っている。	ケアプランには、栄養士、看護師、機能訓練士、医師等の多様な職種からの意見を参考に作成している。モニタリング評価においても、必要に応じて聞き取りを行い、プランの見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言語での職員間の申し送りやパソコンでの情報記録入力を行い、個人での情報に留めることなく些細な発言も記録に残すように心がけ、統一ケアが行えるようケアの実践につなげている。	タブレット端末も活用し、記録の効率化を図っている。結果として、利用者との関わりの時間を増やすことにつながっている。ケアプランなどは、紙ベースに加え、パソコンでも確認する事ができる。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り本人・家族の思いに寄り添えるようサービスの提案を行いながらニーズに対応している。併設しているカフェなども自由に利用していただきながら過ごしやすい環境づくりの支援を行っている。	面会時間の基本的設定はあるが、利用者の状態や看取り期である場合等、家族の希望する時間に合わせて行なっている。併設のカフェやマシンルームは、地域住民も利用する事ができ、利用者や家族、地元住民との交流の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院さんのご協力を頂きながらおしゃれを楽しんでいただけるよう、カットやカラーなども行っている。併設しているカフェへ自由に出かけることができ暮らしを楽しむ事のできる支援を行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されてからも、今まで馴染みのあるかかりつけ医の継続も可能であることを伝えながら、必要に応じ受診後の内容は職員間で共有を行いケアに繋げている。	かかりつけ医は、本人・家族の希望で選択することができる。協力医は往診があり、それ以外は家族による受診を依頼している。看護師は職員として配置されており、日常の健康管理とかかりつけ医との連携を行いながら支援に努めている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーにて情報共有を行い、入院中も連携を図りながら情報共有を行っている。退院時にはカンファレンスを行い安心して過ごしていただけるように努めている。	入院時は、看護師が作成した基本情報を医療機関に提供している。退院時には、必要に応じてカンファレンスに参加し、利用者がスムーズに事業所での生活に戻れるよう、受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から終末期についての話し合いを本人・家族ととお話するように努めている。状態が変化した時も家族と話し合いながら本人・家族の望まれる方向性で支援できるように努めている。	入居時に、重度化や終末期に向けた本人・家族の希望を確認している。状態変化がある場合は、その都度話し合い、再確認している。看取り後は、毎月の部署会議で支援の振り返りを行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応勉強会を開催し実践力を身につけ、いざという時に慌てることなく対応できるように取り組んでいる。緊急マニュアルも作成し、いつでも確認できるような体制を整えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、利用者さんを交えながら、いざという時に職員・利用者が慌てることなく避難できるよう訓練している。消火栓の位置なども毎年確認しながら対策を行っている。	法人全体としてのBCPがあり、その中に事業所毎の記載がある。自然災害以外にも、感染症対策用BCPも完備されている。避難訓練は利用者と共に実施し、適切に避難誘導を行うなど、災害時に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初心を忘れない様、白鳥十か条を朝礼で共有しプライバシーへの配慮に心掛ける様、職員間で共有を行っている。	年間研修計画では、接遇やプライバシー保護について学んでいる。これらは「新生語録」や「白鳥十か条」にも落とし込まれ、職員が日々意識できる仕組みとなっている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけにならないような声掛けに注意しながら、選択肢が行えるような声掛けができる様心掛けている。食事の選択やレクリエーションの選択が行えるような取り組みを行っている。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん思いを尊重し、職員都合な関わりにならない様、その方の思いに寄り添いながら自身のペースで生活できるよう希望に沿った支援が行えるよう心掛けている。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立を献立表に記入していただくことで食欲増進を図り、お話をしながら一緒にカレーライスを作り食事を楽しい時間となるような心掛けを行っている。	同法人のサンビレッジフーズからの配食がある。汁物は事業所の畑で採れた野菜や、調達した材料で手作りしている。毎日の献立表は、利用者が記入するなど、食事を楽しむにする工夫がされている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーだけでなく、ゼリーやその方のお好きなものを提供しながら水分摂取を行っている。必要に応じて嗜好品などを家族から持ち込んでいただき提供している。摂取ができない方に対してはこまめに提供を行っている。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後など口腔ケアに心掛け自身で行って頂けるような声掛けを行い実施していただいている。自身で行うことの出来ない方に対しては舌下ブラシなどを使用し口腔ケアに心掛けている。	コップや歯ブラシは清潔保持を心掛けている。義歯洗浄も本人ができることは見守りで支援し、ケアが難しい人には、フォローしている。歯科医・歯科衛生士と連携を図りながら、利用者が往診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員間で排泄のパターンなどのアセスメントを行い情報共有を行っている。最後までトイレでの排泄が行って頂けるよう、排泄動作の継続や下肢筋力維持などに心掛け、自立支援の促しを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を楽しんでいただけるよう、季節に合わせた入浴風呂の提供を行っている。体調不良時には曜日の変更を行いながら安心して入浴していただけるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を崩すことなく、職員都合にならないようなケアに心掛け、本人のペースに合わせて過ごして頂けるよう心掛けている。眠れない時は寄り添いながら安心して頂ける環境作りに努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報などで個々の薬剤情報を確認しダブルチェックを行いながら飲み忘れや服薬のリスクが起らない様に職員間で情報共有を行っている。	利用者毎の個別ファイルは、鍵のかかる棚にて管理をしている。薬は薬剤師が持参し、個々の状況について必要に応じて相談ができています。非常時に備え、1週間分は確保できています。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事や生活歴から得意とすることを生活の中に取り入れ役割として日々過ごしていただき、活気ある毎日が過ごしていただけるような仕掛けを行い、自然と生活リハビリができるような環境作りに心掛けている。	利用者は、小学生の帰宅時の見守り、テーブル拭き、事業所内の植物の水やりなど、出来ること、楽しみごとがそれぞれの役割りとして継続できるよう支援している。これらは、ケアプランにも位置づけしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるよう、ドライブに出かけ気分転換を図り交流を深めている。自宅への帰宅希望があらわれる場合も希望が叶うよう外出支援を行っている。天気の良い日は地域の学生に対し見守り支援を行い、外の空気を吸えるような取り組みを行っている。	日常的に、周辺を散歩している。小学生の見守り隊を利用者が職員とともにっており、外気に触れる機会でもあり、同時に地域との交流機会となっている。年間外出スケジュールとして、季節の花見など、ドライブにも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんの同意のもと、自己管理が行える利用者さんは自身で管理を行い、併設のカフェにてコーヒーを飲まれたり、クッキーや駄菓子などを召し上がっていただけるようになっています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族さんへの言葉や住所を自身で書いていただき、年賀状と暑中見舞いをご家族さんにお送りしています。携帯電話を使用されている方も自由に連絡が取れるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に作成した壁画を飾ったり、日々の様子のお写真などを飾り居心地の良い環境作りを心掛け生花を生けたりもしている。音楽を流しゆったりとした空間の演出も行っている。	事業所専用の共用空間の他、カフェやマシンルーム、デイサービスエリアなど、自由に行き来する事ができる。利用者にとって、居心地の良い共用空間作りに取り組んでおり、南からの日当たりの良い場所で、利用者がうたた寝している姿を見ることができた。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、ゆっくり過ごせるスペース作りに心掛け、カフェスペースなども自由にご利用できる居場所の選択が出来る様に配慮している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やまくらなど安心できる環境で過ごしていただけるよう心掛け、ご家族さんの写真なども飾っていただき、居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けた声掛けに心掛け、出来るかぎり自走していただけるような環境作りに配慮し、安全に移動できるような空間作りに心掛けている。		